

情報誌「林野」をご愛読いただき誠にありがとうございます。

日本の森林は、戦後、先人達の努力によって造成されたスギやヒノキなどの人工林の過半が本格的な利用期を迎えています。林野庁では、この豊富な森林資源を活かし、林業・木材産業によって地域に雇用を生み、経済を活性化させ、地方創生を図ってゆくため、林業の成長産業化の実現に向けた各種施策を進めています。

木を使うことに魅力を感じられる商品や技術を開発して木材の利用を拡大していくこと。その木材を国内でまかなえるように森林を育て、利用するための体制を整えること。「木を伐って、使って、また植える」という循環を将来に向けてきちんと構築することは、現代を生きる私たちの責務ではないでしょうか。

特に、木材をより多くの方々に使っていただくためには、都市部に住み、一見森林とは関わりの薄い方々にも、森林整備や木材製品を生産する現場の様子を、そして森林・林業・木材産業との日々の生活との関わりをもっと知っていただきたいと願っています。

平成27年5月号より14回に渡り情報誌「林野」に掲載してきた「お山ん画」では、苗木生産や間伐作業などの林業の現場や、きのこや炭の産地、ツキ板やCLTの工場まで現地取材を重ね、それぞれの分野の魅力や専門的な知識などを、誰でも楽しみながらご理解いただけるよう、漫画でお伝えしてきました。

このたび、この「お山ん画」の中から、林業の現場や木材製品の生産を取り上げたものを、「林野」特別号として一冊にまとめ発行いたします。

より多くの皆様に、森林・林業・木材産業へ興味や関心をお持ちいただくきっかけとなれば幸いです。

元気な森(人工林)と農山村を育てるため、木を使う必要

